

自然に親しむ ― 私たちは森里川海でできている―

この本は、子どもたちに自然に親んでもらいたいと強く願っている人たちが作ったものです。だからこの本を読んだら、次は外に出て、自然に親んでくださいね。

自然って、もちろん森や里や川や海です。そういうところに行く、遊ぶ。そうすると気持ちがいい。雨が降ったらどうする。雪だったらどうだ。そういうこともありますね。でも天気の良い日だってあるでしょ。

森、里、川、海に行くのもいいけれど、マンガを読んで、ゲームがやりたい。それもいいですね。今は八十歳の私でも、両方やります。でも森や里や川や海にも行きます。なぜって、虫がいるからです。私は、虫とりが大好きなんです。嫌いな虫もありますよ。虫じゃなくて、魚を釣ってもいい。カニを捕まえてもいい。小学生の頃は、どちらも大好きでした。今は虫です。川でも海岸でも、もちろん虫とりはできます。

この本には、水の流れが出てきます。森に降った雨は、地面の中や川を流れて、やがて海に入ります。でもまた雨になって森へ落ちてきます。ぐるぐる回っているんですね。

君たちの体も、七割は水なんです。その水は飲んだ水ですね。食べ物にも水がたくさん含まれています。その水はどこから来たんでしょう。飲む水は水道からです。水道の水は、川やダムから来ます。

ダムは川をせき止めて作られています。だから結局は、川の水ですね。そう、君たちの体の水は、川から来たわけです。それなら、川は君たちの体につながっていますよね。

田んぼがあります。「あれは田舎にあるもので、自分と関係ない」。農家の子でないと、そう思うかもしれません。でも君たちはお米を食べるでしょ。食べたお米は身体を動かすエネルギーになります。車のガソリンみたいなものです。でも君たちの体も作ります。つまり、米が君たちの体の一部になるわけ。それなら田んぼは、将来の君たちの一部じゃないですか。そう思ったことがありますか。

魚を食べる。食べた魚の一部は君たちの体になります。魚は海の中で育ちます。それなら君たちは海を食べてるみたいなので、さらにそれなら、海も君たちじゃないの。

海は海、川は川、自分とは違うよ。ふつうはそう思います。でもよく考えてみると、海や川や森も、結局は自分につながっているのです。いま自分の体を流れている血は、あっちの川やこっちの川から来た水ですからね。

自然に親しんでいないと、なかなかそうは思えないのです。森や川は自分じゃない。そう思ってしまいます。そうすると、森や川にゴミを捨てても平気になります。「自分と関係ない」と思うからでしょうね。

世界と君たちはしっかりつながっています。自然に親しんで、それを感じられるようになってください。心からそう願っています。